

◎ 心理カウンセリング学科の3つの方針

《子ども学部心理カウンセリング学科がめざす人間像》

豊かな人間性と確かなコミュニケーション能力を持った臨床心理の専門職業人、および専門知識と応用技術を持って社会に貢献できる人

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

大学設置基準にもとづき、本学が定める履修要件に沿って124単位以上を修得し、そのGPA値が原則2.0以上であって、以下の観点別能力を身につけたものに卒業を認定し、学位を授与する。

- I 【主体的・自立的に行動できる確かな人間力】（態度・志向性）
 - 1) 心理専門職の社会的使命と職業倫理について理解している。
 - 2) 人の心や行動、地域社会で生じる事象に関心が持てる。
 - 3) 子どもや子どもを取り巻く人材に共感的態度を持って行動することができる。
- II 【専門職業人としての汎用的能力】（技能・表現）
 - 1) 専門職業人にふさわしいコミュニケーション技能（ICT活用技能を含む）を習得している。
 - 2) 心理的諸問題に関心を示し、自らの見解を述べることができる。
 - 3) 心理支援の現場で求められる専門的技能の基礎を身につけることができる。
- III 【教養ある専門職業人としての基礎力】（知識・理解）
 - 1) 心理学諸領域に関する基礎知識を習得している。
 - 2) 臨床心理学の基礎理論、およびその各種技法について理解している。
 - 3) 臨床心理学の近接諸領域に関する基礎知識を習得している。
- IV 【地域生活を支援し、創造する力】（行動・経験・創造的思考力）
 - 1) 子どもの実情を把握し、心理的課題を推察することができる。
 - 2) 心理的課題に目を向け、地域の現状に応じた支援体制について考えることができる。
 - 3) 心理学の基礎知識を基に、地域支援に必要な行動力を身につけることができる。

教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）

- ・心理学を基盤とした臨床心理学をカリキュラムの中核に据えつつ、その知識の応用により、医療、福祉、教育、産業、司法の各領域を含む地域社会との協働及び相互発展に寄与する、深く幅の広い学際的総合的な科目を配置する。特に、以下の各点において特色ある教育課程を編成する。
- ・深い人格成長とコミュニティの支援に役立つ「表現療法（芸術療法）」に関する科目
- ・子どもや彼らを取り巻く人々の心と行動を理解するための「心理査定（心理アセスメント）」に関する科目
- ・子どもの発達や障害に関する理解と支援に関する科目
- ・豊かな人間性と確かなコミュニケーション能力を育むための演習科目と体験学習科目
- ・地域社会に貢献する心理カウンセラーの資質を持った専門職者に必要とされる資格（公認心理師、認定心理士、社会福祉主事等）に関する科目
- ・入学から卒業まで、少人数のゼミと担当教員によるきめ細やかな指導を通して、学生による自主的な学習態度を育成するための、学生への個別的な学習支援及び少人数ゼミナール形式の演習科目

入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）

心理カウンセリング学科では、地域社会に貢献する心理カウンセラーの資質を持った専門職業人を養成することを目的に、次のような能力、意欲、適性をもった学生を受入れることを基本方針とする。

- ① 子どもや彼らを取り巻く人たちへの心の支援にかかわる職業に就きたいと考えている人。
- ② 心理的支援を行うために必要な基礎学力がある人。
- ③ 人の心や行動に関心がある人。
- ④ 人とのコミュニケーションを深め、自らを向上させようと努力する人。

以上のような基本的な考えに基づき、心理職（公認心理師受験資格*、認定心理士申請資格、児童心理司任用資格、大学院へ進学して臨床心理士受験資格）や福祉職（社会福祉主事任用資格、児童福祉司任用資格**、児童指導員任用資格）の資格を持つ専門職業人となるために必要な基礎的、専門的科目群の学修を通して、子どもをめぐる様々な問題に対応できる高度な資質と応用能力を持ち、さらに実践的で多彩な実習を通して、対人援助技法の習得や子どもや彼らを取り巻く人たちがより良く生きるための支援について実践できる学生を受け入れたいと考えている。

* 卒業後大学院を修了するか、2年以上特定施設で実務経験を行い受験できる資格。

** 卒業後1年以上、特定業務を行い取得できる資格。